

地域支援だより

群馬県立前橋高等特別支援学校 支援推進部

No. 2 令和5年3月発行

農道に黄色の菜の花が目に見える早春を迎えております。今年度も本校の特別支援教育センター的機能による相談業務をご活用いただき、大変お世話様になりました。心より感謝申し上げます。

今年度も2回のみ発行となる地域支援だよりではありますが、スムーズに新学期を迎える準備ができるよう、お便りを活用しお知らせしたいと思います！

学習指導要録等、個々の生徒の成長の記録を残す年度末となりました。

生徒の成長の記録！と言えば、個別の教育支援計画、個別の指導計画も評価をする時期を迎えています。

記載する箇所はほんの少しの部分です。短時間で記録可能です！先生方が残される生徒の記録が、次に該当生徒を担当する先生方の一助となります。

PDCA サイクル（Plan 計画→Do 実行→Check 評価→Action 改善）を大切に各計画に記録を残し、チーム支援ができる体制を整えていきましょう！

各計画書類内のどの項目に評価を記載するのかについては、下記を参考にしてください。下記の内容は、すでに群馬県教育委員会特別支援教育課より、各校に配付されている『個別の教育支援計画及び個別の指導計画の参考様式 Excel ファイル「02【案】教育支援計画（群馬版）（高等学校用）」』より抜粋したものです。記入例付きのとてもわかりやすいファイルになっています。ご活用ください！

合理的配慮の項目内「所見等」欄に該当生徒の様子を記載します。

【個別の教育支援計画】

	配慮の内容	所見等
合理的配慮	・音声言語のみでは指示どおりに動くことができないため、指示をする際は、メモを渡す。	メモを渡すことで、自分で意欲的に動くことができるようになった。

- ・本人・保護者と合意形成した配慮事項を記入し、次の学年に引き継ぎます。
- ・毎年内容については、本人保護者に確認をし、必要に応じて変更をしていきます。

引き継ぎ資料に

個別の教育支援計画

個別の指導計画

ぜひ、ご活用ください！

※その他の項目について

○『支援者・関係機関との連携』項目では、連携可能となった機関が増えている場合は、記載します。Excel ファイル「02【案】教育支援計画（群馬版）（高等学校用）」アンダーバー支援計画（記入例）を参考にしてください。

評価後は、本人・保護者とも共有をするとよいです。本人にとって、また保護者にとっても、成長を感じ取ることができるとなります。本人にとってはできるようになった自分を知るツール、保護者にとっては我が子の成長を知る喜びを共有できるツールにもなります。本人・保護者とともに計画を進めることを大切にしていきましょう！

取組の様子に、該当生徒の様子を簡潔に記載します。

【個別の指導計画記入箇所・記入例】

教科・領域等	配慮事項	取組の様子
英語	・英単語の読み方がわかるように、フォニックスを取り入れる。チャンクリーディングシートにはふりがなを振る。	綴りと発音の法則を学び、ふりがなを付けることにより、英語を読むことができるようになった。口形を見せながら発音練習をすることで、正しい発音ができた。英作文に課題が残る。整序問題を活用し、英文作成に慣れるとよい。

有効だった点、改善が必要だった点が記載されると、引継ぎ時に役立ちます。



起立性調節障害 理解啓発動画の紹介

日本小児心身医学会公開資料に『起立性調節障害～クラスメートに知ってほしいこと～』と題した動画が公開されています。周囲に理解されにくい状況が多いことから、理解啓発のため、専門医により作成された動画とのことです。動画時間は7分18秒、大変分かりやすい内容となっています。

起立性調節障害は、自律神経による循環調節が機能しにくくなり、長期にわたる不登校状態やひきこもり、学校生活やその後の社会復帰に大きな支障をきたすことが医学的に明らかになっています。身体面の急な成長によりホルモンバランスが崩れ、自律神経も乱れてしまうこともあるようです。

冬から春にかけての季節の変わり目、自律神経が乱れやすい時季でもあります。基本的な生活習慣、バランスの良い食生活、身体を冷やさないことを大切にすよう、生徒観察を通し生徒指導を心がけていくとよいです。起立性調節障害で苦しむ生徒理解のために、LHR等で動画を活用することも良い手段です。

*日本小児心身医学会HPより、国立成育医療研究センターに繋がる「新型コロナウイルスと子どものストレスについて」たくさんの資料を公開してくださっています。指導支援にご活用ください！



特別支援の 窓から

～担任の先生との会話より～

自閉的傾向の生徒、視線を合わせない方がよいのかなと思い、敢えて合わせない関わりをしていたという先生がいました。該当生徒との関係は、なかなかしっくりいかない日々、逆に距離を感じていきました。ある時から、本人と視線を合わせ関わるようにしていくと、徐々に本人との関係性が確実に変化していきました。本人との関わりが楽しくなった！と嬉しそうに話してくれる担任の先生でした。視線を合わせることは視覚という感覚に刺激を入れることです。感覚を入れる関わりの大切さを改めて感じたちょっとしたひとこまの職員室内での会話となりました！